

ターンテーブルアキュライザーの導入(9)

—総合試聴(2)—

1. 始めに

前報(8)では、オーディオ仲間の ST 氏にお越しいただき、総合的に試聴していただきました。今回、現役時代の会社の同僚のオーディオ仲間の F 氏が、不用になったアナログ盤を譲るとのことでお越しいただきましたので、短時間ではありますが、ついでに試聴をお願いしました、

2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴方法

使用したアナログプレイヤーは LINN LP-12 です。

F 氏は、このところアナログを聴いていないということですが、無理を言って、下記のアナログ盤を使用し、ターンテーブルアキュライザーTACU-1 有無の確認などをお願いしました。

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

ドイツグラモフォン MG8333/4

ニコロ・パガニーニ 24 の奇想曲

サルヴァトーレ・アッカード (Vn)

LONDON SLA 1009

モーツァルト ピアノソナタ 12 番・10 番・5 番・4 番

ロンドイ短調

ウイルヘルム・バックハウス (ピアノ)

3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴結果

時間もないということで、2 枚ほど TACU-1 の効果を聴いていただきましたが、倍賞千恵子は透明度の高い歌唱であり、24 の奇想曲は擦弦の細かいニュアンスが出ており、TACU-1 を外すと単調になるということでした。

モーツァルトのピアノソナタは、今回譲っていただいたものですが、TACU-1 を装着した状態で ZANDEN Model 120 のイコライザーカーブと位相反転の効果を聴いていただきましたが、イコライザーカーブでは RIAA カーブが聴きなれた音、DECCA カーブは少し勝手が違う、位相反転はした方が、音の焦点が合うということでした。レーベルでは *ffss* と書いてあり、録音も古いので、DECCA カーブの逆相

だと思われます。

今回、F氏から譲っていただいたアナログ盤は、モーツアルトを主に、100枚ほどありますので、TACU-1など、これまでのアナログ関係の対策の総合的な評価を兼ねて聴きこんでいきます。



4. まとめ

ターンテーブルアキュライザーTACU-1の効果について確認していただき、またイコライザーカーブなどによる音の違いも確認していただきました。

以上